

経済・永江ゼミ

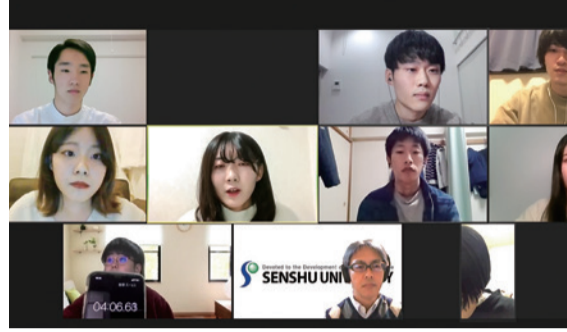
白熱 競技ディベート

大学対抗リーグで総合3位

経済学部・永江雅和ゼミでは「競技ディベート」を通じて、学生の能動的学習を促すアクティブラーニングを実践している。

競技ディベートとは、定めたテーマに対して肯定と否定の立場に分かれて議論を戦わせ、内容を採点し勝敗を決めるゲーム形式の討論のこと。

参加者全員で議論を交わした=12月16日



12月16日のゼミでは「国鉄分割民営化」をテーマにしたディベートが身についていた。ゼミ生たちは実例を示しながら財政面や安全面などさまざまな角度から主張し、オンライン授業ながら白熱した議論が展開された。

商・石川ゼミ

未来へのアクション

CSVビジコンで企業賞



企業賞を受賞した石川ゼミの渡辺さん、陸さん、今村さん、由里さん(左から)

業を手掛ける(株)メンバースの主催で4回目。企業が提示したテーマに対し、大学生がCSV(社会課題をビジネスで解決する事業やプロモーション)を提案した。全国の大学から45組の応募があり、9組が10月10日に開催されたオンラインでの本選に選ばれた。

石川ゼミの陸連さん、渡辺優芽さん、由里海晟さん、今村優乃さんは、学習塾を運営する湘南ゼミナールの「100年後の未来をつくる教育」というテーマに挑戦した。メンバーで話し合ったり、アメリカのBLM運動のニュースを見たりするなかで「人種差別を解消して多民族共生社会をつくる」という案にたどりついた。「人種差別は外国だけの問題ではない。多民族共生社会をつくるためには教育が重要」と陸さんは話す。

法教育プロジェクト

模範立法で法制度学

社会的課題を把握し、法的に解決する力を身につける「法研究プロジェクト」が12月12日、神田キャンパスで開催された。第二東京弁護士会の弁護士とともに、「少年法と報道規制」をテーマに模範立法を行った。法学部では、18歳から法教育や主権者教育を意図した授業に取り組んでおり、法制度への理解をさらに深めるため、昨年度に引き続き同プロジェクトを実施した。

文・ジャーナリズム学科プロジェクト

大宅文庫の魅力を発信

文学部ジャーナリズム学科は本年度、演習科目「プロジェクト」を開始した。プロジェクトは、2年次生が受講するアクティブラーニング科目。野口武悟教授担当のプロジェクトでは、雑誌専門図書館の大宅文庫の協力を得て、「大宅文庫」を活用プロジェクトに取り組んだ。同文庫を活用して、その魅力を発信し

経営・馬場ゼミ

地域活性化プランを提案

みたかビジコン アイデア部門奨励賞



表彰式でプランを発表する福島さん、小林さん、渡邊さん(左から)

経営学部・馬場杉夫ゼミの3人が、東京都三鷹市のビジネスコンテスト「みたかビジコン」のアイデア部門で奨励賞を受賞した。

コンテストは、起業支援を通じて地域の活性化を推進する(株)まちづくり三鷹の主催。独創性や将来性を競うアイデア部門には36件の応募があり、3チームが奨励賞に選ばれた。



専大生と住民が協力して清掃活動

プランを考案した。小林さんは「より多くの人を巻き込むための仕掛けとして『食育』の要素を加えた」と話す。11月13日に同市で開催された表彰式では、プランを発表。渡邊さんは「緊張したが、限られた発表時間のなかで十分にやりきることができた」と手応えを感じている。

グリーンボード専大チーム

ごみ拾いで地域交流

今年度から本学の公認サークルとなった、ごみ拾いのボランティア団体「グリーンボード専大チーム」が、新型コロナウイルス感染症の影響で中断していた対面での活動を再開した。初日の11月21日は、学生や近隣住民ら16人が参加。境問題やSDGsに高い関心を持っているが、活動に



参加した法学部1年次生の男性は「意見の違う人と話し合うことで、さまざまな考えがあることが分かり勉強になった」と話していた。現職の弁護士とともに模範立法に取り組んだ